

じゅんさい池みらいプロジェクト 取組み方針の検討

## ホタルの人工飼育について

### 現 状

- ホタルの里は、昭和 63 年に整備された。平成元年には建設省の「手づくり郷土賞」を受賞  
ホタルの飛翔時期には多くの観客が訪れる
- 区建設課が人工飼育を担っている
- 6～7 月上旬：飛翔したホタルの成虫を捕獲  
7 月               ：交尾、産卵させる → 7 月下旬頃 孵化  
～翌年 3 月下旬：管理事務所の水槽で幼虫を飼育  
                          (水槽の水の入れ替え、清掃、えさやり、生存数の確認)  
3 月下旬       ：じゅんさい池のホタルの里に幼虫を放流



ホタル飛翔の様子



人工飼育の様子  
(水槽中の幼虫に餌をやる様子)

### 課 題

- 飼育環境について  
ホタルの餌となるカワニナは、これまで近郊の水路で確保してきたが、水路のコンクリート製品への改修が進んだことなどにより確保が困難になった。  
公園管理事務所内の水槽で飼育しているが、夏季の水温上昇や病気のまん延など、常に絶滅してしまうリスクを抱えて飼育を行っている。
- 飼育の担い手について  
飼育には知識と経験が必要となるが、長年携わってきた職員の雇用期間の終期が迫っている。  
市職員は約 3 年おきに人事異動があるが、他の業務のようにマニュアルで引き継げるものではない。

### 検討事項

- じゅんさい池公園にとって、ホタルの位置づけや価値は何か。
  - ・「季節を感じられる憩いの場づくり」に必要なもの？
  - ・30 年以上の歴史があり毎年多くの観客が訪れるので、じゅんさい池には欠かせないもの？
  - ・今後つないでいくべきじゅんさい池の魅力や価値は、ここにしかない固有性（地形や環境）であり、人工飼育されたホタルは永続させる必要はない？
- 後継の担い手を探すべきか。  
(併せて、飼育技術や飼育環境の継承が可能か。)
- 人工飼育が継続困難な場合、ホタルの里をどうするべきか。
  - ・公園利用者のために、初夏にはホタルの成虫を飛ばす？
  - ・飼育の終了とともにホタルの飛翔も終了する？